【ポスター発表】

スクールソーシャルワーカーの仕事満足度とその関連要因

－スクールソーシャルワーカーへのアンケート調査を通して－

○　九州ルーテル学院大学　　山口倫子　（会員番号 7094）

［キーワード］　スクールソーシャルワーカー、仕事満足度、関連要因

１．研 究 目 的

文部科学省が 2008 年にスクールソーシャルワーカー活用事業を開始して以降、スクールソーシャルワーカー（以下、SSWer）の実人数は増加傾向にあり、2024 年時点で 3,241 人となっている。SSWer の職務は個別支援から地域支援まで多岐にわたり、ジェネラリストソーシャルワークの専門知識や技術に加え、教育分野に係るスペシフィックな部分の資質や能力等が求められている。また、良質かつ適切なスクールソーシャルワーク（以下、SSW）を実践していくためには、SSWer の仕事満足度を把握するとともに、その向上に寄与する要因等について多角的に検討することが必要である。しかし、SSWer を対象とした仕事満足度に関する先行研究は皆無に等しいのが現状である。そこで本研究では、SSWer の仕事満足度とその関連要因について検討することを目的とする。

２．研究の視点および方法

本研究の視点は、SSWer の仕事満足度の向上に寄与する要因を導き出すことにある。調査期間は 2023 年 2～3 月で、調査対象者は全国の都道府県、政令指定都市及び中核市と、独自に SSWer を配置していることが事前に把握できた市町村教育委員会（計 140 カ所）に所属する SSWer とした。

調査内容は、調査対象者の基本属性（年齢、経験年数、就労形態）、「仕事満足度（1 項目）」「仕事自尊感情（9 項目）」「児童・生徒（クライエント）との関係性（6 項目）」「スーパービジョン（以下、SV）体制（3 項目）」で構成した。「仕事満足度」「仕事自尊感情」「児童・生徒（クライエント）との関係性」の質問項目への回答選択肢は「そう思う」（4 点）から「そう思わない」（1 点）までの 4 件法とし、意識が高い回答であるほど高得点となるように配点した。「SV 体制」の質問項目への回答選択肢は「あてはまる」（4 点）から「あてはまらない」（1 点）までの 4 件法とし、肯定的な回答であるほど高得点となるように配点した。分析方法は、「仕事満足度」を従属変数とし、「仕事自尊感情」（＜SSW に対する肯定的自己評価＞＜SSW に対する無力感＞の 2 因子）、「児童・生徒（クライエント）との関係性」（＜クライエントの問題解決を目的とする関係＞＜相互の信頼と成長をもたらす関係の＞2 因子）、「SV 体制」の各下位因子を独立変数、調査対象者の基本属性（年齢、経験年数、就労形態）を調整変数として重回帰分析（強制投入法）を行った。以上の統計分析は、

統計処理ソフトSPSS 29.0 J for Windowsを用いた。

３．倫理的配慮

本調査の実施にあたり、全国の教育委員会へ調査内容と趣旨を説明した依頼文書を送付し、調査協力が得られた教育委員会に対して実施した。調査票への回答は無記名とし、調査票の返送をもって調査協力に同意したものとみなし、その旨依頼文に記載した。なお、本調査は、国際医療福祉大学大学院研究倫理審査の承認（22-Ig-183）および熊本学園大学研究倫理委員会の承認（2023年2月）を得て実施した。また、本報告に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

４．研 究 結 果

調査票の配付数は1,336部で、回収数は339部（回収率25.4%）、うち有効回収数は337部（有効回収率は25.2%）であった。回答者の平均年齢は51.2歳（標準偏差11.8，範囲：25－78歳）であった。また、回答記入時点でのSSWerの平均経験年数は、5.7年（標準偏差3.7年，範囲：0.5－20年）であった。さらに、回答者の就労形態は、「非正規職員」が304名（90.2%）と最も多く、以下、「派遣職員」が13名（3.9%）、「その他」が10名（3.0%）、「正規職員」が6名（1.8%）の順であった。そして、「SSWerの仕事にほぼ満足している」という質問に対し、「そう思う」と回答した人は72名（21.4%）、「ややそう思う」161名（47.8%）、「あまりそう思わない」87名（25.8%）、「そう思わない」14名（4.2%）であった。

重回帰分析の結果、「仕事自尊感情」の＜SSWに対する肯定的自己評価＞（$\beta=0.316, p<0.001$）と＜SSWに対する無力感＞（$\beta=0.234, p<0.001$）、「SV体制」（$\beta=0.142, p<0.01$）、「児童・生徒（クライエント）との関係性」の＜相互の信頼と成長をもたらす関係＞（$\beta=0.142, p<0.05$）が有意な正の関連を示していた。この重回帰モデルの調整済み決定係数（R^2）は0.324であった。

５．考 察

本調査の結果、仕事満足度について回答者の69.2%が「業務にほぼ満足している」と肯定的に回答していることが示された。また、SSWerの仕事満足度に最も強く関連している要因が仕事自尊感情の＜SSWに対する肯定的自己評価＞であった。このことから、SSWer自身が他の人に劣らない技術を持ち、自信を持って積極的に業務に従事できている場合に仕事満足度が高いことが示唆される。また、SV体制も正の関連要因であったことから、SV体制の整備をはじめ、SSWerの研修や自己研鑽の場の提供が仕事満足度の向上につながると考えられる。

（本調査は、文部科学省科学研究費の助成による基盤研究（C）20K02234の一部として実施した。）